

【静岡】温度調節設備を

製造するエイディーディー  
(静岡県沼津市)は冷凍食  
品の輸送に適した新しい保  
冷剤を開発した。専用の機

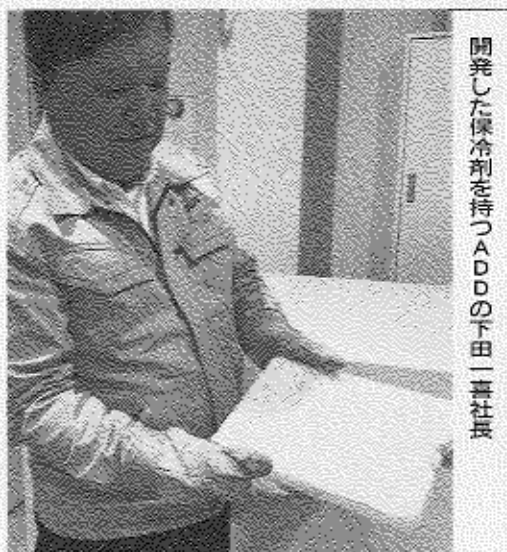
械でマイナス130度まで  
冷やせば、ドライアイスを使  
う時と同程度の環境をつ  
くることができる。冷凍食  
品の保冷剤として食品メー  
カーや運送業界向けに今夏  
から売り出し、初年度4億  
円の売り上げを目指す。

販売する保冷剤は1つ1つ  
家庭用の電源でマイナ  
ス130度まで冷やせる  
「超低温チラー」と保冷剤  
を合わせて平均200万円  
で今夏に販売を始める。発  
売1年目に3〜4億円、2  
年目に8億円の売り上げを  
目標にしている。

保冷剤は何度も冷却して

# ドライアイス同等保冷剤

開発した保冷剤を持つADDの下田一喜社長



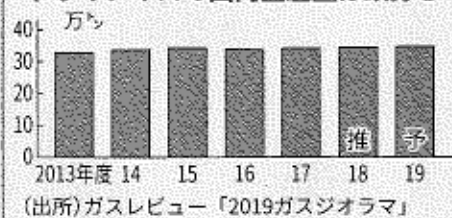
を包装する技術に強いトラ

剤ができたことで、冷凍品  
イ・カンパニー(沼津市)を  
と組んで18年夏から開発を  
ナス35度の環境をつくるこ  
進め、商品化にこぎつけた。  
同社によると今回の保冷

保冷剤を使った輸送環境

## 冷食流通に、静岡の企業開発

ドライアイスの国内生産量は頭打ち



は、マイナス18度程度を保

つのが限界だったという。

運輸業界ではドライアイ

スを保冷剤に切り替える動

きが出始めている。背景に

はドライアイスの値上がり

がある。製油所のトラアル

ラー」と呼ばれる。最近

などで原料の液化炭酸ガス

の供給量が低下し、国内の

ドライアイス生産量は頭打

ちだ。ドライアイス最大手  
のエア・ウォーター炭酸(東  
京・港)は今年4月にドラ  
イアスを10〜15%値上げ  
した。

ドライアイスの減量によ  
って原料である炭酸ガスの  
排出量を減らすこともでき  
る。企業に投資する際に環  
境への配慮を求める動きも  
強まるなか、保冷剤を使っ  
た輸送が広がれば環境への  
負担を抑えつつ配送コスト  
を削減できる。

同社は2001年に半導  
体製造時の温度調節機械の  
製造やその修理事業を柱と  
して創業した。温度上昇を  
抑える機械は一般的に「チ  
ラー」と呼ばれる。最近  
物流や医療といった多分野  
に参入し、成長を続けてい  
(亀田知明)